

ペシャワール会・PMSで  
30年以上支援活動を続ける

ふじた ちよこ  
**藤田 千代子さん**  
(肝付町出身)

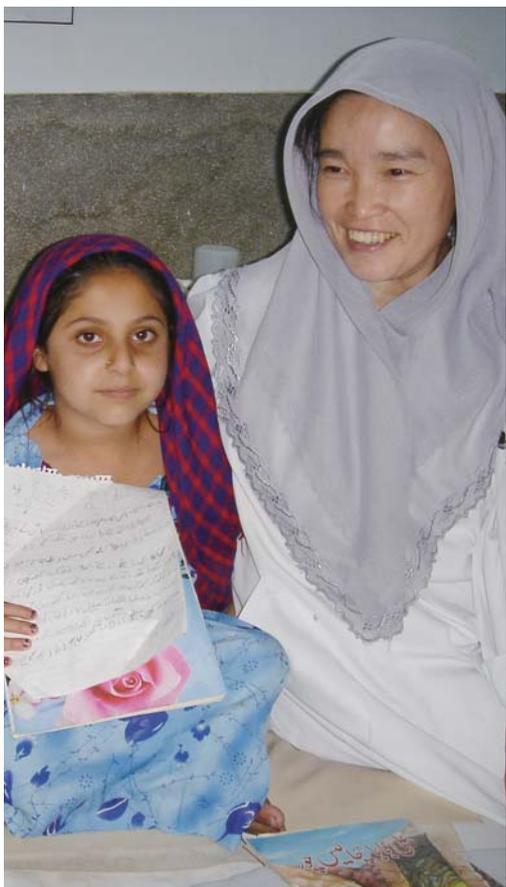
○ペシャワール会とは？

ペシャワール会は1983年に中  
村哲医師のパキスタンでの医療活動  
(ハンセン病の治療)を支援する  
目的で結成されたNGO(非政府)  
団体です。(ペシャワールはパキス  
タンのアフガニスタンとの国境近く  
にある地名のこと。現在はアフガ  
ニスタンで活動している)

また、中村医師を代表に現地で

活動を行っているのがPMS(Peace  
Japan Medical Services)という  
現地事業体であり、その活動をペ  
シャワール会が支えています。(中  
村哲医師は2019年に死去され  
ました)

PMSは医療団体ですが、病気  
の背景に干ばつによる食糧不足と



↑アフガン難民の子供(写真:左)と  
藤田さん(写真:右)



↑現場周辺村の子どもたちと

栄養失調があることから、農地の  
回復が急務と判断し、今なお進行  
する大干ばつのなか灌漑水利事業  
に重きを置いて、医療・農業支援  
を併行して、普及活動を進めてい  
ます。

今回はそのペシャワール会・PMS  
で支援活動を行っている肝付町  
出身の藤田千代子さんにお話を伺  
いました。

○藤田さんが参加することになっ  
たきっかけ

鹿児島市の看護学校を卒業後、  
福岡県の病院に看護師として勤め  
ていた藤田さんは、中村さんの講  
演を聞きました。講演の中で、現

地では女性が身内以外の男性に肌  
を見せない習慣があり、女性のハ  
ンセン病患者の早期発見が難しい  
こと、治療が遅れていること、そ  
のため女性の医療従事者が必要と  
されていることを知り、参加を決  
意したといえます。女性の医療従  
事者として藤田さんを頼る現地の  
女性患者は多かつたそうです。

○主な活動

赴任当初から看護師としての仕  
事に加え、人材育成や井戸掘り、  
食料の配給、中村さんが不在の際  
は現地病院の院長代理を務めるな  
ど様々な分野で活動をされてきま  
した。

治安悪化により2009年に帰  
国し、今も医療や農業事業、用水  
路建設に取り組んでいる現地のス  
タッフと連絡を取りながら基金管  
理や資機材の管理などを行ってい  
ます。

○藤田さんよりメッセージ

「日本もコロナ禍で大変な状況  
ではありますが、私たちの活動を  
通して、少しでもアフガニスタン  
のことを知っていただけたら。」と  
語っていました。